

バイブルスタディ Pastor JD Farag

2019.01.13

ピリピ人への手紙3:1-9 「律法主義は破壊する」

今日の聖書箇所はピリピ3章1-9節です。

使徒パウロは、聖霊によって、ピリピの教会にこう書いています。

**ピリピ3:1-9**

**1** 最後に、私の兄弟たち、主にあって喜びなさい。

私は、また同じことをいくつか書きますが、これは私にとって面倒なことではなく、あなたがたの安全のためにもなります。

**2** 犬どもに気をつけなさい。悪い働き人たちに気をつけなさい。肉体だけの割礼の者に気をつけなさい。

**3** 神の御霊によって礼拝し、キリスト・イエスを誇り、肉に頼らない私たちこそ、割礼の者なのです。

**4** ただし、私には、肉においても頼れるところがあります。

ほかのだれかが肉に頼れると思うなら、私はそれ以上です。

**5** 私は生まれて八日目に割礼を受け、イスラエル民族、ベニヤミン部族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法についてはパリサイ人、

**6** その熱心については教会を迫害したほどであり、律法による義については非難されるところがない者でした。

**7** しかし私は、自分にとって得であったこのようなすべてのものを、キリストのゆえに損と思うようになりました。

**8** それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損と思っています。

私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。

それは、私がキリストを得て、

**9** キリストにある者と認められるようになるためです。

私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。

では、一緒に祈りましょう。

主よ、今、御言葉を読みましたが、大変厳しい内容です。

ですから、もっと集中し、理解する目が開かれるように聖霊で満たして下さい。

主よ、この時間、今日の御言葉を通して、私たちのいのちに語って下さい。

そのために、私たちはここにおります。

あなたはいつも誠実で、それが出来るのはあなただけですから。

静かに精錬して下さい。聖霊の声が聞きたいのです。

主よ、あなたに願い求めます。語って下さい。しもべは聞いていますから。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。

今日は、私のクリスチャン人生で、「もっと早く理解していたかった」と個人的に思う問題—律法主義—について話したいと思います。

特に、律法主義がクリスチャン人生や教会生活にどれほどダメージを与え、破壊的であり得るかについて、です。

ピリピ教会も事情は同じでした。

パウロが“聖なる力”でこれを書いていることで、その事がよく分かります。

私が“聖なる力”と呼ぶ理由を率直に言うと、彼が律法主義に関して言わざるを得なかったことは、大きな説得力を持っているからです。

この箇所をもっと理解し、適用するために少し説明をします。

今、私たちは割礼をしません。が、当時は、救いのために律法的条件を強いており、割礼が適用されていました。

これは、当時の教会に多くの問題を引き起こします。

基本的に言っていたのは、「あなたは救われた。しかし...、○○もしなければならない！」

この○○の部分に律法の命令を入れ、十字架上で完成されたイエス・キリストの業に付け足しをしたのです。

今日悲しいことに、私たちは他の形で、このようなことを見えています。

カルトの人たち、カルト集団が言っているのは、「イエスは十分ではない。」

「イエス+安息日を守ること」「イエス+義の行いをする事」「イエス+○○」

これは、当時のピリピ教会が直面していた問題でしたが、残念なことに、今日の教会が向き合っている問題でもあるのです。

パウロが言っていることを見ていきましょう。

彼は典型的な律法主義者で、律法主義のイメージキャラクターと言ってもいいかもしれません。

そのため、このようなニセの教えに対抗できる者がいるとすれば、それはパウロだったのです。

彼が言っていることは、殆どこんな感じです。

「あそこも行った。これもやった。Tシャツも買った。でも、それは全てゴミだ。」

「それは全て糞だ。」とでも言いませんか。

パウロは「私は梯子の頂点まで上り詰めた。」と言える人でした。

「でも、その梯子は間違った壁に掛けられていた。」彼はそうしていたのです。

そもそも、なぜ律法主義の梯子を上りたがる人がいるのでしょうか。

答えはプライド、高ぶり。

そして、高ぶりとセットで付いてくるのが自己義。

自己義とセットなのが誇り。(Boasting)

これが宗教の姿であり、宗教がすることです。

宗教は言います。「あなたは神のためにしなければならない。」

それが宗教。

イスラム教は、「アッラーのために、しなければならない。」

「義の基準に達するために、努力しなければならない。」

「悪い行いに勝るほどに働き、良い行いをしなければならない。」

「もしそうするなら、パラダイスに入れる。」

行い。これが宗教。これが律法。

イエスが言っていることは全くの正反対。

「違う。あなたが何をするかではない。」「あなたがするのではない。わたしが既にやったのだ。」

「わたしがあなたのために、代わりにやったのだ。あなたにはできないから。」

そして、「完了した。」

宗教は「自分が何をしたかが重要だ。」

イエスは「違う。もう完了した。終わっている。」

## エペソ2:8-9

**8 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。**

**それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。**

**9 行いによるものではありません。(なぜなら) だれも誇るものがないためです。**

自己義で「私がしたことを見て！」

自信の中に誇りがある。

繰り返しますが、この事について話せる人がいるとしたら、それはパウロでした。

どうして律法主義は、信者の人生に、これほど大きなダメージを与える原因となるのでしょうか。

皆さんに知ってほしいのは、私自身の経験です。

クリスチャン人生がスタートした初めの頃、律法主義は私に大きなダメージを与えました。

また、これが教会に大きなダメージを与えるのも直接目にしました。

律法主義が引き起こす問題の中には、取り返しのつかないものもあります。

だからパウロはこのことを、とても厳しく、激しく指摘しているのです。  
今日の箇所から、「どうして律法主義は、致命的であるほど危険なのか。破壊的なのか。」を見ていきましょう。  
私は理由を3つ、見つけました。もっとあるかもしれませんが。

#### ① 律法主義は、主の喜びを破壊する。1-3節

**1 最後に、私の兄弟たち、主にあって喜びなさい。**

**私は、また同じことをいくつか書きますが、これは私にとって面倒なことではなく、あなたがたの安全のためにもなります。**

**2 犬どもに気をつけなさい。悪い働き人たちに気をつけなさい。肉体だけの割礼の者に気をつけなさい。**

**3 神の御霊によって礼拝し、キリスト・イエスを誇り、肉に頼らない私たちこそ、割礼の者なのです。**

驚いたことに、パウロは1節で、ピリピの兄弟姉妹に「主にあって喜んでほしい」と語っています。

これは前置きのようで、この後パウロは、“犬”、“肉体だけの割礼の者”、“悪い働き人”と呼ばれる人たちのことを話し始めました。

彼はこれを話す前に、みんなに「喜んでほしい」と言っているのです。

これをそのまま受け止めるなら、「あなたは私たちに喜んでほしいと言うけど、あなたはあの人たちを犬と呼ぶの!?!」

中東の文化では今日でさえ、誰かを“犬”と呼ぶのは最大の侮辱だということを理解する必要があります。

同じレベルの言葉があるかもしれませんが、講壇から繰り返して言う勇気もありません。

本当に全くひどい言葉です。

中東で誰かを心底不快にさせたければ、その人を犬と呼べばいいのです。

パウロはそう呼んだのです。狂犬病の犬だと。

ひょっとすると、正しいかもしれませんね。

彼らは、律法主義の顎で食い尽くしていましたから。

だから、パウロが割礼を要求する人たちを、“肉体だけの割礼の者/肉体を破壊する者”と呼んでいるのは非常に適切です。

悪い行いをする人。

彼らがやっていることは、靈的領域に於いてもピッタリ当てはまると言っておきます。

彼らは靈を破壊する者。

恵みの下にある喜びを破壊し、滅ぼし、食い尽くす。

ではなぜ、パウロはこれほどまでに単刀直入なのでしょう。

彼は、「高ぶりに突き動かされた律法主義者の共通点は、クリスチャンとしての人生に喜びがないことだ」と分かっていたから。

考えてみて下さい。

あなたは律法主義にすっかり侵されている人を知っているかもしれませんね。

彼らの人生には自由がありません。

キリストにある解放がないのです。

キリストにある自由がないなら、絶対に喜びもありません。

これが2つ目に繋がります。

#### ② 律法主義は、主への信頼を破壊する。4-6節

**4 ただし、私には、肉においても頼れるところがあります。**

**ほかのだれかが肉に頼れると思うなら、私はそれ以上です。**

**5 私は生まれて八日目に割礼を受け、イスラエル民族、ベニヤミン部族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法についてはパリサイ人、**

**6その熱心については教会を迫害したほどであり、律法による義については非難されるところがない者でした。**

パウロはここで肉への信頼について話す時、いつものように核心を突きます。

よく聞いて下さい。

律法主義によって、キリストの義に信頼するのではなく、自分自身の義を信頼するのです。

キリストを誇らず、キリストに信頼せず、自分自身の義を頼り、それを誇りとしている。

**私たちはみな、汚れた者のようになり、その義はみな、不潔な衣のようです。（イザヤ書64:6）**

ある翻訳では「不潔な着物」となっていますが、これは「月経（生理）の布」のこと。

生々しい表現で申し訳ありません。

でも、もし私が、イザヤが言っている自己義の生々しい本質を明確に表現しないなら、私は不誠実だと思いません。

では、点と点を繋げていきましょう。

神にとって、私たち自身の義は汚れた月経の布のようなものです。

月経の布が表しているのは死。

なので、その中にいのちの概念はありません。

もし、いのちの概念があるなら、ここで月経について触れていないでしょう。

これが自己義の姿です。

③ 律法主義は、どれほど主との関係を破壊するか。7-9節

これが、私が早い時期に知っておきたかったことです。

補足すると、敵はあなたにこれを聞いてほしくない。

敵は、7-9節で主が語られていることを聞き逃すようにと、今でもあなたの気を散らそうとしたり、色々なことを考えさせようとしています。

**7 しかし私は、自分にとって得であったこのようなすべてのものを、キリストのゆえに損と思うようになりました。**

**8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損と思っています。**

**私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。**

**それは、私がキリストを得て、**

**9 キリストにある者と認められるようになるためです。**

**私は律法による自分の義ではなく、キリストを信じることによる義、すなわち、信仰に基づいて神から与えられる義を持つのです。**

私と主との関係の土台が恐れであること。

これが私にとって、律法主義の最も破壊的なところで、主との関係を破壊し、ひどく損なうのです。

恐れが動機になる。

失敗することの恐れ、かなわないことへの恐れ、基準を満たさないことへの恐れ。

常にビクビクしていて、霊的にいつも薄氷を踏んでいるような感じです。

私と主との関係は、「もし失敗したら...神は私を罰する。」

これは、主が望んでいる関係ではありません。

恵みがベースになっている関係は、神のアガペーの愛ゆえの関係です。

「神は、何があっても私を愛している。」

「先週はひどい1週間だった。」

そして、自ら主から離れる。

なぜなら、主とのこのような力関係の中では、神が自分に怒っていると思うから。

もしくは更に悪いことに、神は自分を見捨てたと思うから。

「もう、これまでだ!」「何度言えばいいんだ!?!」「あなたにはがっかりだ! もう、終わりだ!」と。

これが、律法主義。

どれほど破壊的でしょうか!

ところでこれは、サタンがあなたにもくろんでいる方法そのものですよ。

私たちがイエス・キリストの救いの知識に与った時、サタンはその策略を完全に変更した、ということを理解しなければなりません。

以前は、私たちがキリストに近づかないように手段を選ばなかったけど、今は、キリストにある私たちを分断させ、離れさせ、私たちから盗みたいのです。

「敵は盗むために来る」とイエスは言いました。

私はビッグ3と呼んでいるのですが、この順番に注目して下さい。

「敵は、盗み、殺し、滅ぼすために来る。」

サタンは何でもします。

たった今、これについて思ったのですが、主が私にシェアさせたいのかもしれない。

木曜日の夜、引用したことで...記憶力が悪くて、思い出せないのですが...

キャンベル・モルガンかオズワルド・チェンバース、マーティン・ロイドジョンズの内の一人で、基本的にこう言ったのです。

「私たちは悪魔の声は聞くが、神の声は聞かない。」

「悪魔の嘘を信じるが、それゆえに神の真理は信じない。」

真理とは何ですか。

ローマ8章に書いてあります。

あなたがこの事に関して葛藤しているなら、今日時間を使い、黙想し、ローマ書8章全体を祈りながら見ていくことで本当に励ましたいのです。

なぜなら、これが真理だから。

「高さも、深さも、権威者も、どんな被造物も、何も、誰も、

**私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」 (ローマ8:38-39)**

これが恵みです。

これと対比して、敵がするのは嘘をつくこと。

「おまえはめちゃくちゃだ。」「おまえは失敗した。」「罪を犯した。」

神が天で、「あなたがあんな事をするなんて信じられない！」と言うと思いますか。

神が驚いていると思いますか。

「だって、神様にもう二度としないと誓ったのに...、またやってしまったの！」

あなたは神が「もう、これまでだ。二度としないとやったことをやってしまったんだから。」と言っていると思ってしまう。

これが律法主義。律法です。

律法は殺す。

律法主義は、神が私たちに抱いている愛の関係を破壊させるのです。

アガペーの愛は容易に表現できない、説明できないもの。

なぜなら神の愛は、「わたしはあなたを愛している。」以上。これでピリオド。

「あなたが“もし～なら、～するなら”わたしは愛する」というものではありません。

昨晚、娘が11歳の子供らしい態度を取るので（何を言っているか分かりますよね）「心を入れ替えなさい。」と話して、彼女のために祈りました。

娘は心を変えて、私をハグし、「本当にごめんなさい。」

そこで私が返した言葉は、「キミが今のであるなら、愛してるよ。」

言った後で、自分が何を言ったかに気づいたのですが、彼女は「今、何て言った!?」みたいな感じで。

なぜなら、この言葉が意味することは、「もしキミがこうしないなら、私は愛さない！」

私たちは天の父の愛を、地上の欠けのある親のレンズを通して見えています。

それは不十分で、欠陥だらけ、条件付きの愛です。

聖霊によって、皆さんが自分への神の愛を理解できるように、できる限り努めたいと思っています。

私に注がれている神の愛とは、私がまだ罪人であった時に、キリストが私のために死なれたということです。

「神の私への愛を減らすことは、誰にもできない。」

ここにいる誰かのための言葉かもしれません。  
そしてこれが、私が主にとってまだ幼かった頃に、知っておきたかったことなのです。

「でも、先生は私がしたことを知らない。」  
聞いて下さい。私は知りたくありません。  
しかし、「私は本当に悪いことをしたのです。」「オレには過去があるんだ。」など、神は知っておられます。  
皆さん、イエス・キリストの系図についてよく考えたことがありますか。  
マタイとルカの福音書に記録されていますが、世の救い主の血筋には、売春婦や近親相姦も含まれているのです。

恐ろしい、想像を絶することですが、これには目的がありました。

ダビデは神の人の一人です。  
私は天で彼に会うことをとても楽しみにしています。待ち切れません。  
神の御心にかなった素晴らしい人。大変なことをやらかした人。  
イスラエルの甘美な詩人。イスラエルの王。  
彼から、“ダビデの子”とまで呼ばれた世の救い主が生まれます。

そのダビデは、人妻と姦淫を犯しました。(Ⅱサムエル記11章)  
そして彼女が妊娠したことを知ると、それを隠そうとして、彼女の夫を殺すことを企み、実行するのです。  
彼はこの事から逃れられると思っていました。  
およそ1年が過ぎた頃と言われていますが、その時、神が...  
こう言うのを許してほしいのですが、神はダビデをとっても恋しがっていたと思います。  
なぜならこの時、ダビデは神から離れていたから。  
詩篇(51篇)を見ると、彼の内面がどれほど死にかけていたか、渴いていたかが分かります。  
ダビデは、かつての主との親密な関係を求めていました。  
私が思うのは、主もそれを求めていたということです。  
「ダビデに戻って来て欲しい。」  
神はダビデを愛していたから。  
神は、ダビデも神を愛していることを知っていました。

そこで神は預言者ナタンを、罪を責めるためではなく、悟らせるために送りました。(Ⅱサムエル記12章)  
ナタンは聖霊の型です。  
悟りは私たちが主へと導き、罪の責めは主から引き離します。  
**こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。**

**(ローマ書8:1)**

「ダビデ、あなたを愛している。」  
「わたしはもうこれに耐えられない。あなたもそうであることを知っているよ。」  
神はナタンを送り、ナタンはこの出来事を示してダビデに言いました。

**「あなたがその男です。」(Ⅱサムエル記12:7)**

ダビデはただ砕かれた。  
彼はこの罪の結果に苦しみましたが、  
**神のみこころに添った悲しみは、後悔のない、救いに至る悔い改めを生じさせる。(Ⅱコリント7:10)**  
ダビデの残りの人生は驚くべきものとなりました。

神は「いい加減にしろ!」「あなたを叩き潰す!」と言われたか。いいえ。  
皆さん、律法の下では、姦淫と殺人は死によって罰せられるということを理解しなければなりませんよ。  
しかし神は「わたしはあなたの罪を片付けた。」「あなたの罪を赦している。」  
もし、こんな恵みを受け取ったら、人は思うでしょう。  
「やった! また同じことができるぞ。そうして、また赦しを求めればいいんだ。」  
興味深いことに、ダビデはそうは考えず、二度と愚かな罪を繰り返しませんでした。  
それは、彼が回復されたからです。

最後に一つ。ペテロに関して、興味深いことが詳しく書かれています。

3度目に鶏が鳴いた後、ペテロはイエスと目が合って気づき、激しく泣きました。(ルカ22:61-62)

ペテロは絶対に「もうおしまいだ。私は主を否定してしまった。」と思ったでしょう。

だから、彼は漁師に戻ろうとしたのです。(ヨハネ21章)

イエスが彼の前に現れた時、彼は再び漁業を始めようとしていたのですが、その時、イエスはペテロを回復させました。3回。

どのように回復させたかがとても面白い。

3度目に、イエスはペテロに「あなたはわたしをアガペーの愛で愛していますか」と言いました。

「ペテロ、わたしをそのように愛しますか？」

「わたしの羊を飼いなさい。再び漁業に戻ってはいけません。あなたは人間を捕る猟師になります。」

こうして、イエスはペテロを回復させました。

私はⅠ・Ⅱペテロの手紙を学ぶのがとても楽しみです。

ピリピ、コロサイ、第一、第二...、その前に携挙が起こるかもしれませんが、辿り着くでしょう。

神はペテロを愛していました。

神はあなたを愛しています。

あなたがこの恵みを積極的に受け入れるなら、義は行わなければならないことではなく、行うことができることになる。

これが全てを変えるのです。

律法主義について言いたいことがあります。

もし律法主義を擬人化できるなら...

「親愛なる律法主義へ。

あなたがしようとしていることは必ず罰せられる。

あなたは、私と私への神の愛との間に入ることはできない。

なぜなら、神の私に対する愛は、私の行為に基づくのではなく、神がなされたことなのだから。」

これは、ダビデが言っていることです。

「私はあなたが、かなり乱れた私について、聖書で読んだことを知っている。

私がヒッタイト人ウリヤをどのように殺すかという計画を企てたなんて、きっと知りたくなかっただろう。

しかし、これら全てが聖なる書に記されているのだ。

私がどれほど酷かったかを見せるためではなく、あれほどの悪行にも拘らず、どんなに良かったかを見せるため。

私の悪がどんなものかに拘わらず、神はどんなに良い方であるかを見せるため。」

律法主義はあなたを憎んでいる。

律法主義はあなたを、あなたの人生を滅ぼしたい。

律法主義はあなたと主との関係を破壊したい。

律法主義はあなたを律法の下で行動させたい。

しかし主は言われます。

「全ての行いは、わたしを愛するあなたの愛ゆえに、恵みの下でなされる。

やらなければならないのではない。やりたいから行うのだ。」

神はあなたを愛しています。

皆さんは今日、こう言うでしょう。

「律法主義から離れなければ。」

「私の中にある有害な律法主義との関係を終わらせなければ。」

「私と主との関係を回復させなければ。」

それは、主との時間を過ごすのに、朝、目が覚めるのが待ち切れないという関係。

これ以上、律法主義の声を聞きたくない。

「もっと御言葉の中で過ごさなきゃだめだ!」「静まる時間を持つべきだ!」違います。  
そのような時、神がどう感じるか想像できますか。  
それは、あなたの子供がこう言うのと同じでしょう。  
「ああ! お父さん/お母さんと一緒に過ごす必要があるの!?!」  
「あ...いや、大丈夫。気にしないで。構わないよ。」となりませんか。

そうではなく、「明日の朝が待ち切れない。」  
「起きて、ただイエスと一緒に過ごす時間が待ち切れない。  
悩みや恐れや心配、問題、葛藤を全部、イエスに打ち明けると、イエスは私に語りかけ、助けてくれる。  
そして、聖霊が慰めてくれるんだ。」  
これが、私が求める主との関係です。皆さんも同じだと思います。

祈りましょう。  
天のお父様、感謝します。  
あなたの恵みを、愛をありがとうございます。  
私たちが恵みの中で、キリストの中にいるという関係を感謝します。  
イエスの御名によって。アーメン。

~~~~~  
「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージby JD Farag牧師

カルバリーチャペルカネオへ<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi